



周りの評判も良く、乗っていて楽しかったという若旦那。彼のキャデラックに対する印象を変えたのが、このクロスオーバーモデル「SRX」だ。撮影車には、Gianelle Designのモデル名「BOLOGNA(ブラック)」の24インチが装着されている。ちなみに試乗車は、これとは別にノーマルモデルを用意した。

**PARADA Spec-X**  
255/30-24



2015.8.5 Release



若旦那  
New Album  
**WAKADANNA 4**  
~男はつらいぜ、泣いてたまるか~  
TKCA-74250  
¥3,000+TAX

「ホイールが装着された愛車を、あらゆる角度から眺めては笑みを浮かべる若旦那の姿がそこにあった。」

を試乗してそれまで描いていたキャデラックへのイメージが変わったと言う。「キャデラックは、デカ箱のイメージがありましたね。でも、今回試乗したSRXは、街乗りにとっても合っているなあって感じました。細い路地も入ったし、駐車場で切り返したり、難しい車庫入れも試してみました。全然、大丈夫でした。それ以上に感じたのは、周りの反響ですか

ね。『ヤバいくるまに乗ってすね?』とか「旦那さんってやっぱりお洒落ですね!」って、なんか自分がお洒落の極みみたいな感じで、いろいろな人に褒めてもらいました。「試乗車なんです」って言いづらくなりましたよ。キャデラックは成功とか王者の風格といったイメージがあったけど、このSRXは意外にシテイ派で、若者っぽさを感じましたね。お台場のレインボ

ーブリッジが似合うくるまだなあって感じ。それと、こういうSUVは女の子が好きですよ。ファミリア的なのか、いい人に見えるのか、とにかく女の子のウケが良かったですよ!」と、好印象の様子。

感じているのか? 「自分はキラキラさせた成金のスタイルは好みじゃないので、上品にアップデートする方向性が好きですね。クルマのキャラクター性にマッチした自然なスタイルがいいと思います。」



**PROFILE**

2014年には自ら主催するイベント「ハカヤロ」で、バンド修行を兼ねたワンマンライブを横行し「ロンクバンド」として新しい「若旦那」のスタイルを提唱し、ソロ活動やプロデュース業としてもその才能を発揮している。2015年は、最多の全国22カ所での「絶対」の舞台に、オレはギタラー・2015!を開催。そのライブスタイルは日々進化し続けている。

ソロ活動やプロデュース業などマルチな才能を発揮し、「愛」と「絆」の大切さをストレートに伝えるアーティスト「若旦那」。そんな彼にキャデラックSRXを試乗してもらい、最新キャデラックの魅力に話してもらった。さらに、愛車に装着したジオバンナ・ホイールへの思いとは……。

Photo: 木下 誠  
Styl: 日比野智己  
協力: キャデラック・シボレー国立 Tel.042-575-2526 www.stg-inc.jp  
Special Thanks: BROTHER HOOD Tel.029-305-9755 www.brother-hood.com

**CADILLAC**  
**SRX CROSSOVER**  
キャデラック・シボレー国立  
**若旦那**  
WAKADANNA

そんな若旦那だが、SRX

「クルマに対しては、背伸びするタイプではないですね。自分の背丈にあった選び方をするのが、クルマとのスタンスです」と話す、若旦那。

これまでの車歴は、軽自動車からスタートし、ニッサン、ムラーノ、トヨタ・アルファード、トヨタ・ハイエースなどを乗り継いで来たという。そして、現在の愛車はメルセデスベンツS550であり、意外にも自身初めて所有する「外車」なのだとか。

「ベンツを選んだのは、ポビユラーだからです。腕時計だったら、とりあえずロレックスを買った感じでした。それまでは、ちょっとした移動手段にはスクーターとか自転車を使っていたのですが、ベンツを所有してからクルマで移動することがとても増えましたね。」

今回、「キャデラック・シボレー国立」の協力のもと用意して頂いたのは、最新のキャデラックSRX。約2週間ほど好きなように試乗してもらい、素直なキャデラックへの思いを語って頂いた。

「アメリカにいた時は、キャデラックというVIPのクルマという感じでした。成功の象徴というイメージがあります。だから凄く憧れがありました。アメリカに行った時は、必ずレンタカーはキャデラックを借りていたぐらいです。」